

特集

# 北海道・北東北の縄文遺跡群

## 世界遺産登録から1周年

■問合せ 社会教育課社会教育・文化財グループ (☎74-3010)

「北海道・北東北の縄文遺跡群」がユネスコ（国連教育科学文化機関）の世界遺産に登録されてから今年7月で1年が経ちました。

世界遺産登録は大きな反響を呼び、洞爺湖町の「入江・高砂貝塚」も見学者が急増。縄文文化に理解を深めようと連日、多くの人々が訪れています。

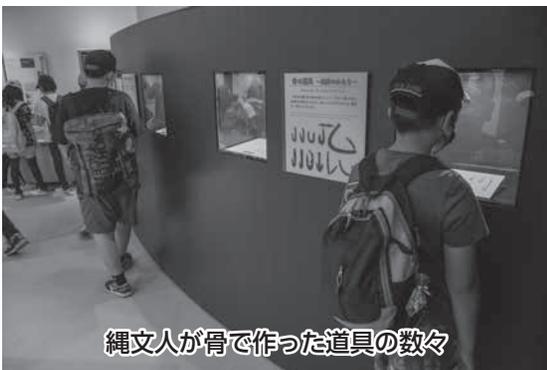
登録から1年を機に入江・高砂貝塚の今と登録後に行われた主な事業を紹介します。



縄文時代の漁について解説を聞く児童

入江・高砂貝塚では、世界遺産登録後、見学者が急増しています。新型コロナウイルス

入江・高砂貝塚で見つかった出土品の数々を展示している入江・高砂貝塚館。7月下旬のある日、館内は修学旅行中の児童でごった返していました。動物の骨で削りだした漁具や土器などにカメラを向け、説明文をノートに書き写すと次は入江貝塚へ。竪穴住居の跡に立ち、学芸員から「この下には今も縄文時代の家が埋まっています」と解説を聞くと目を大きくして驚いていました。



縄文人が骨で作った道具の数々

入江・高砂貝塚では、世界遺産登録後、見学者が急増しています。新型コロナウイルスの感染拡大前の2019年4月～11月は3830人でしたが、2021年は7月～11月の5か月で4547人を記録。今年は4月～7月20日のおよそ4か月で3634人の上っています。中でも団体客が占める割合が多く、2021年は1497人と全体の3割以上を占めました。今年は7月20日現在で1553人とすでに昨年を上回っています。修学旅行など授業の一環として訪れる学校も多く、教育における価値も認められています。今年度は来年3月末まで開



入江貝塚の竪穴住居

### 北海道・北東北の縄文遺跡群

北海道のほか青森県、岩手県、秋田県にある17の考古遺跡で構成。2019年7月に世界文化遺産登録の推薦候補に選ばれ、2021年5月の登録勧告を経て同年7月の第44回世界遺産委員会で登録が決定。

道内の世界遺産は知床に続く2件目で、世界文化遺産としては初めて。

館を予定しており、さらなる注目を集めそうです。次ページでは、世界遺産登録後の取り組みについて紹介します。

## 世界遺産登録後の主な取り組み

〔2021年〕

■世界遺産委員会パブリックビューイング（7月27日）

第44回世界遺産委員会における北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産認定を町民や有識者が見届けました。

■世界遺産登録記念式典（11月22日）

文化庁長官と縄文遺跡群の構成遺産を有する4道県の知事、市町村の首長が参加。登録を祝いました。

■ボランティアガイド育成

21、22年度に3回ずつ講習会を開催。現在は11人が登録し、5人がガイドデビューしています。

■縄文遺跡群パネル展

11月25日～12月22日にみずうみ読書の家、22年1月の成人式で開催しました。

〔2022年〕

■縄文遺跡を活用した地域づくり勉強会（伊達洞爺湖ミュージアム地域振興プラットフォーム主催。2月16日）

オンライン開催し、縄文遺跡を活用した地域づくりについて他地域と意見交換を行いました。

■ポケット学芸員の導入

入江・高砂貝塚と貝塚館を中心に、洞爺湖町にある文化財の解説などの情報を得ることができるよう4月から導入しました。

■縄文体験事業（5月5日）

こどもの日に合わせて入江・高砂貝塚館で勾玉作り、弓矢の体験を実施し、109人が参加しました。

■世界遺産登録1周年記念第12回とうや湖縄文まつり（7月18日）

入江・高砂貝塚館で開催し、シカの骨を使った釣り針作りや火起こし体験を実施。150人が集まりました。

■PR事業

・虻田郵便局が、入江・高砂貝塚の写真を使ったオリジナルフレーム切手を作成、限定販売中  
・JR北海道が特別編成の特急北斗ラベンダー編成で入江・高砂貝塚をPR。運行初日に町職員が車内でチラシを配布

### 世界遺産登録1周年記念 第12回とうや湖縄文まつり

入江・高砂貝塚が、北海道・北東北の縄文遺跡群の構成遺産として、世界遺産登録されてから1周年を記念し、第12回とうや湖縄文まつりが7月18日、入江・高砂貝塚館で開かれました。

新型コロナウイルスの影響で2020年、21年は中止したため、3年ぶりの開催となりました。今回は、シカの角を使った釣り針作り



火起こし体験



縄文時代の道具作り



手作りの釣り針を使った釣り体験

や火起こしの体験コーナーのほか、クイズラリーなどが行われました。  
できあがったシカの角の釣り針は、水槽に浮かべた木製の魚などをつり上げるゲームで使い、大勢の子どもたちでにぎわいました。